

講 義 概 要

2026年度



慈 恵 柏 看 護 専 門 学 校

講義概要

2026年度

目 次

I. 教育課程

1. 教育理念・目的・目標	5
2. 卒業時の到達目標（ディプロマ・ポリシー）と必要とされる能力（コンピテンシー）	6
3. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）	8
4. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	8
5. 主要概念の定義	10
6. 科目の構成	11
7. カリキュラム進捗表	15
8. 学科進捗表	17

II. 学年別講義概要

1年次

基礎分野	23
専門基礎分野	35
専門分野	57

2年次

基礎分野	95
専門基礎分野	103
専門分野	109

3年次

専門基礎分野	165
専門分野	169

III. 臨地実習講義概要

181

I. 教育課程

1. 教育理念・目的・目標

教育理念

本校は、明治18年 創始者 高木兼寛がナイチンゲール看護婦学校に範を得て、「つねに人びとの幸を願いそのために献身する」という慈恵の精神に基づき、看護教育を開始した、わが国最初の看護師教育機関です。以後、一貫して社会に貢献できる看護実践者を育成しています。

教育にあたっては、専門職として必要な知識・技術を身につけ、教育所開設当初より大切にしてきた、品位、礼儀、辞讓、温和な態度で対象である人間を尊重した看護を実践できる看護師を育成します。慈恵の看護教育を受けた看護師は、社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健福祉分野に貢献できる専門職として人々の健康に寄与します。

教育目的

慈恵の精神に則り看護に関する専門教育を行い、人間性の涵養につとめ社会に貢献できる有能な看護師を育成することを目的とする。

教育目標

- 1) 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う
- 2) さまざまな人々と人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う
- 3) あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う
- 4) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、多職種と連携・協働できる能力を養う
- 5) 豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度を形成できる
- 6) 専門職業人として看護を探究する姿勢を養う

2. 卒業時の到達目標(ディプロマポリシー)と必要とされる能力(コンピテンシー)

慈恵の看護専門学校は、卒業時到達目標に示す目標を達成し、必要な能力を身につけた学生に卒業を認め、専門士（看護）の称号を付与する。

【必要とされる能力（コンピテンシー）】

感じる力:

人間に対する心のもった関心と思いやりを持ち、お互いの言動の意味と考えを認知・共感する力、他者の立場に立つ力、他者の考えや感情を知る力、自己の想像力である。

人とかかわる力:

自分の感じていることや行動傾向を知り、他者の感情や考え方、おかれている立場を理解する力である。また、他者の思いに傾聴および共感しながら自分の考えを正確に伝える力、感じ取る力・聞く力・伝える力・内省する力である。

ケアする力:

看護に関する知識と技術を有し、臨床の場で活用し、実践する経験を通して看護観を育み、問題解決の能力や臨床判断能力を養い看護を実践する力である。

協働する力:

チーム医療に携わるうえで目的を達成するために他者に応援を求める力、自分および他者の役割を知り、協力し合う力、交渉力、調整力である。

学び続ける力:

生涯にわたって専門職としてより質の高い看護を目指して自律的に最新の知識・技術を学び続ける力である。

【卒業時の到達目標（ディプロマポリシー）】

- 1) 人間を統合された存在として幅広く理解できる
- 2) 看護の対象者との信頼関係を形成するためのコミュニケーションができる
- 3) 豊かな人間性を備え社会的規範を理解し行動できる
- 4) 科学的根拠・倫理に基づきさまざまな健康状態に応じた看護を実践する
- 5) 保健・医療・福祉システムにおける看護と多職種の役割を理解し連携・協働できる
- 6) 生涯にわたり継続して専門的能力を高めていくことができる

【教育目標・コンピテンシー・ディプロマポリシーの関連】

関連が強い:◎ 関連している:○

コンピテンシー	教育目標	1 人間の存在を尊重し、 人間の理解を深めるための 能力を養う	2 さまざまな人々と人間関係 を形成するコミュニケーション 能力を養う	3 あらゆる人々の健康状態に 対応した看護を実践する基 礎的能力を養う	4 保健・医療・福祉を総合的に 理解し多職種と連携・協働 できる能力を養う	5 豊かな人間性を養い、 社会人として良識ある態度 を形成できる	6 専門職業人として、 看護を探究する姿勢を養う
感じる力	ディプロマポリシー 1. 人間を統合された存在として 幅広く理解できる	人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合され、個性のある存在として理解できる 人間の尊厳とは何かについて考え、人間の存在を尊ぶ心を持つ 人間に対する心のこもった関心と思いやりを持ち対象の反応を感じ取り受け止め、反応の意味を理解する	◎	○	◎		
人とかわる力	2. 看護の対象者との信頼関係を 形成するためのコミュニケー ションができる	周囲の人の心情や社会的立場、その場の状況などをふまえて品位、礼儀、辞讓 温かな態度、ふるまいができる 他者の思いに傾聴および共感しながら自分の考えを正確に伝えることができる 人とかわることに喜びを感じ、自ら積極的に働きかける 人間を全人的に捉え豊かな対人関係能力を身につけることができる	◎	◎	◎		
	3. 豊かな人間性を備え社会的規 範を理解し行動できる	人を慈しみ、幸せを願う心を持ち、豊かな人間性を養うことができる 法令および社会規範を遵守し、誠実かつ公正な態度がとれる	◎	◎	◎	◎	
ケアする力	4. 科学的根拠・倫理に基づきさ まざまな健康状態に応じた看 護を実践する	根拠に基づいて体系化された知識・技能を現場に適用できる 対象の多様な健康課題を明らかにし、根拠に基づいた看護を計画・実施・評価できる 対象の価値観や自己決定を尊重し、擁護的立場で支援できる		◎	◎	◎	○
協働する力	5. 保健・医療・福祉システムにお ける看護と多職種の役割を理 解し連携・協働できる	対象を取りまく多職種と協働し、看護の視点から発信できる チームの中でリーダーシップ・メンバーシップを兼ねし連携できる		○	◎	◎	
学び続ける力	6. 生涯にわたり継続して専門的 能力を高めていくことができ る	看護職者として自律して学び続けることができる 生涯を通して最新の知識・技術を探究する姿勢を身につけることができる 自らの将来像を描き目標に向かって成長し続けることができる			○		◎

3. 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

慈恵の看護専門学校は、卒業時の到達目標を達成できる学生として、入学時には次のような人材を望んでいる。

- 1) 慈恵の精神に共感し、看護実践に取り組む意欲がある人
- 2) 目標に向かって自ら学び続けることができる人
- 3) 他者の意見を聞き、自分の意見を伝えて信頼関係を作ることができる人
- 4) 看護を学ぶために必要な基礎学力を持ち学習することができる人
- 5) 人に対する関心と思いやりがもてる人
- 6) 誠実で良識ある行動ができる人

4. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

慈恵の看護専門学校は社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健医療福祉分野に貢献できる専門職を育成している。

教育課程は、教育理念、教育目標、卒業時の到達目標（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で構成する。

- 1) 基礎分野と専門基礎分野は、専門分野を学ぶ上で土台となる。専門分野の基礎看護学を核とし、あらゆる対象、健康の段階、療養の場の看護を展開でき3年間で修得すべき能力を養うために必要な学習の順序性を考え、さらに看護基礎教育と卒業後の橋渡しとなるようカリキュラムを構成し、配置する。
- 2) 低学年時からグループ討論、演習、実習を多く取り入れ、反復と応用、体験を繰り返せるような組み合わせで配置する。
- 3) アクティブラーニング、シミュレーション学習、ロールプレイ学習など、知識だけでなく体験を通して学べるような教育方法を積極的に取り入れる。
- 4) 日常的な体験を通して、さまざまな人びとと人間関係を形成するコミュニケーション能力を養えるような機会を提供する。
- 5) 豊かな人間性と、人に対する関心と思いやりをもち、誠実で良識ある行動ができるよう教科内に留まらず、学校生活のすべての場면을学びの機会とする。
- 6) 科目目標の達成度は、多様な評価方法を用いて総合的に評価する。

各分野のねらいと構成は以下のとおりである。

- (1) 「基礎分野」は、専門基礎分野、専門分野を支える科目群である。ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考を育成し、国際化や情報化社会への対応能力（ICT活用能力）を高め、人間の成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。これらの学びをとおして、看護を学ぶための資質を培い、豊かな感性を持ち合わせた主体性のある人間形成に寄与することをねらいとする。
- (2) 「専門基礎分野」は、基礎分野と共に、専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる科目群である。ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。これらの学びによって、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力の基盤づくりをめざす。さらに、人びとが生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健・医療・福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。これらの学びをとおして、看護を実践するために必要な専門知識を身につけることをねらいとする。
- (3) 「専門分野」は、基礎分野、専門基礎分野で学んだ土台をもとに、あらゆる人びとの健康状態に応じた看護の必要性を判断し、適切な方法で援助を実践するための能力を身につけるための科目群である。ここでは、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」を区分する。

「基礎看護学」では、人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護とは何かを考え、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

「地域・在宅看護論」では、多様な場で生活する人びとと家族の暮らしを理解し、地域包括ケアシステムのなかで健康を護り、健康障害を抱えながらも自宅で過ごす人を支えるための看護を学習する。人びとの生活の基盤は地域・在宅にあることを意識づけ、暮らしを支える視点を養うため、「基礎看護学」と同様に1年次より段階的に学習できるよう構築する。

各看護学では、さまざまなライフサイクルにある人びとの特徴を理解し、健康状態に応じた看護について学び、多職種と連携・協働して適切な保健・医療・福祉を提供する能力を身につける。また、それぞれの特徴や専門性を深めながら、できるだけ包括的、横断的な観点から学べるようにする。

「看護の統合と実践」では、既習の学習を統合し、より実践に近づけて看護実践力の向上を図り、生涯にわたって継続して看護を探求するための素地を養う。これらの学びをとおして、社会に貢献できる看護師としての基礎的能力を身につけることをねらいとする。

5. 主要概念の定義

慈恵の看護専門学校は、**看護、人間、健康、環境** を次のように捉える。

看護とは、「その人の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」という、ナイチンゲールの提唱する看護に基づき、あらゆる人びとの成長と発達、健康の状態に応じて、持てる力を活用し、自立を助け、その人らしく日常生活が営めるように援助する活動である。看護は、人間関係を基盤とし、その対象に応じて教育的機能や相談・支持的機能・調整的機能を持つ。

人間とは、基本的人権を有し尊重される存在である。人間は、受精から死ぬまでの生命現象をもち、身体的・精神的・社会的・霊的に統合され、成長しつづける存在である。人間には自然に備わった回復力、自然治癒力があり、人間は外部環境の変化に応じてバランスをとりながら内部環境を保っている存在である。

健康とは、身体的・精神的・社会的に調和がとれている状態である。健康は基本的権利の一つであり、個人の QOL に影響を与えるものである。健康とは良い状態をさすだけでなく、持てる力を十分に活用している状態で、生活過程により影響を受け、流動的かつ連続的なもので、個人の価値観に基づいて自らが創り出していくものである。

環境とは、人間を取り巻くすべてをさし、つねに相互に関連しあい、人間の成長・発達や健康に影響を及ぼしている。人間もまたその環境の一部である。

6. 科目の構成

教育内容		科目名	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	自然科学	1	30
		情報科学	1	30
		論理学	1	15
		日本語表現法	1	15
	人間と生活 ・ 社会の理解	哲学	1	15
		心理学	1	30
		教育学	1	15
		社会学	1	30
		文化人類学	1	15
		看護英会話	1	30
		国際交流と外国語	1	30
		コミュニケーションの基礎	1	15
		自己と他者の理解	1	15
		創造と表現	1	15
	小計	14	300	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造	1	30
		生命の維持機能	1	30
		生体の調節機能	1	30
		人のからだと生活行動	1	15
		生化学	1	30
	疾病の 成り立ちと 回復の促進	病理学	1	15
		治療論	1	30
		生命の維持機能障害と治療	1	30
		生体の調節機能障害と治療1	1	30
		生体の調節機能障害と治療2	1	15
		手術療法	1	30
		微生物と免疫	1	30
		薬理学	1	30
		臨床栄養	1	15
		統合医療	1	15
	臨床心理	1	15	
	健康支援と 社会保障制度	医療概論	1	15
		いのちと医療の倫理	1	30
		医療マネジメント	1	15
		環境保健	1	15
		社会福祉	1	30
		医療と法律	1	30
	小計	22	525	

教育内容		科目名	単位	時間
専 門 分 野	基礎看護学	看護学概論	1	30
		看護の理論と変遷	1	15
		看護技術の基本	1	30
		日常生活の援助	1	30
		診療の補助技術	1	30
		フィジカルアセスメント	1	30
		看護過程の展開	1	30
		日常生活の援助技術 演習	1	45
		診療の補助技術 演習	1	45
		臨床看護総論	1	30
		看護研究の基礎	1	15
		小計	11	330
	地域・在宅 看護論	地域・在宅看護概論	1	15
		人びとの暮らし 演習	1	15
		地域で生活する人と家族への看護	1	15
		地域で療養する人の看護	1	30
		暮らしを支える看護技術	1	30
		人生の終焉を迎える人の看護	1	30
		小計	6	135
	成人看護学	成人看護学概論	1	30
周手術期にある人の看護		1	30	
危機的状況にある人の看護		1	30	
疾病コントロールが必要な人の看護		1	30	
生活の再構築が必要な人の看護		1	30	
がん治療を受ける人の看護		1	15	
	小計	6	165	
老年看護学	老年看護学概論	1	30	
	高齢者の日常生活の援助	1	15	
	高齢者の機能障害の理解と看護	1	15	
	高齢者の健康障害の理解と看護	1	30	
	小計	4	90	
小児看護学	小児看護学概論	1	30	
	子どもの健康の保持増進支援	1	15	
	病気が子どもに及ぼす影響と看護	1	15	
	健康障害のある子どもの看護	1	30	
	小計	4	90	
母性看護学	母性看護学概論	1	15	
	女性のライフサイクルにおける健康問題と看護	1	15	
	妊婦・産婦の看護	1	30	
	褥婦・新生児の看護	1	30	
	小計	4	90	
精神看護学	精神看護学概論	1	30	
	精神障害と治療	1	15	
	精神障害のある人の看護	1	30	
	精神看護の技術	1	15	
	小計	4	90	
看護の統合と実践	看護管理と医療安全	1	30	
	災害看護と国際看護	1	30	
	多職種連携と臨床看護の実践	1	15	
	看護研究の実際	1	15	
	小計	4	90	
専門分野 小計			43	1080

教育内容		科目名	単位	時間
臨地 実習	基礎看護学	基礎看護学実習1	1	45
		基礎看護学実習2	2	90
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	90
	成人・老年 看護学	健康障害のある人の看護実習	2	90
		周手術期にある人の看護実習	2	90
		疾病コントロールが必要な人の看護実習	2	90
		高齢者を理解する実習	1	45
		健康障害のある高齢者の看護実習	2	90
	小児看護学	小児看護学実習	2	90
	母性看護学	母性看護学実習	2	90
	精神看護学	精神看護学実習	2	90
	看護の統合 と実践	多職種連携実習	1	45
		統合実習	2	90
臨地実習 計			23	1035
総計			102	2940

7. カリキュラム進捗表

教育目標		1. 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う 2. さまざまな人々との人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う 3. あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う 4. 保健・医療・福祉を総合的に理解し、多職種と連携・協働できる能力を養う 5. 豊かな人間性を養い、社会人として良質な態度を形成できる 6. 専門職人として看護を採る能力を養う							
学年	1	2	3	4	5				
目標	1.学習習慣が身につく。基礎的知識・技術の習得ができる 2.生活環境が豊かになる 3.積極的に人間関係を築くことができる 4.看護への興味・関心が高まる	1.看護の実践に必要な能力を養う 2.中心学年として自覚を持ち、良質な態度が形成できる 3.治者とのかわりの中から、人間の理解を深めるための能力を養う 4.看護学生としての豊かな人間性を養う	1.人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う 2.あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う 3.保健医療福祉を総合的に理解し、看護の主体性を発揮する能力を養う 4.豊かな人間性を養い、社会人として良質な態度が形成できる 5.専門職人として、看護を採る姿勢を養う						
入学	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	卒業	卒業後	
入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）	専門分野	人びとの暮らし 演習 15 地域・在宅看護概論 15 日常生活の援助技術 演習 45 日常生活の援助 30 看護技術の基本 30 看護学概論 30	精神障害と治療 15 精神看護学概論 30 妊婦・産婦の看護 30 多職種連携実習 45 精神看護の技術 15 精神障害のある人の看護 30 子どもの健康の保持増進支援 15 高齢者の機能障害の理解と看護 15 高齢者の日常生活の援助 15 がん治療を受ける人の看護 30 危険な状況にある人の看護 30 臨床看護総論 30 診療の補助技術 演習 45 フィジカルアセスメント 30 診療の補助技術 30	多職種連携実習 45 精神看護の技術 15 精神障害のある人の看護 30 妊婦・新生児の看護 30 高齢者の理解する実習 45 高齢者の健康障害の理解と看護 30 健康障害のある人の看護実習 90 生活の再構築が必要な人の看護 30 人生の終焉を迎える人の看護 30 暮らしを支える看護技術 30 基礎看護学実習2 90 看護研究の基礎 15	看護研究の実際 15 母性看護学実習 90 小児看護学実習 90 健康障害のある高齢者の看護実習 90 周手術期にある人の看護実習 90 地域・在宅看護論実習 90 看護の理論と変遷 15	基礎分野 専門基礎分野 基礎看護学 地域・在宅看護論 成人看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学 看護の統合と実践	看護キャリアサポート能力開発 看護学の実践に貢献する看護教育者・看護学研究者の育成 自立・自律・チャレンジ・進取の精神を持ち組織を発展させる管理職・スペシャリストの育成 チーム医療・地域連携を促進できるコーディネーター力を持つ実践者・実証指導者の育成 「感じるこころ」「考える力」「人と関わる力」をあわせもつ看護実践者の育成	「機を誤らず」「声を聞き」「形なきに見る」力を備えた看護実践者	
	基礎分野	医療概論 15 微生物と免疫 30 病理学 15 生化学 30 人のからだと生活行動 15 生体の調節機能 30 生命の維持機能 30 人体の構造 30	統合医療 15 臨床栄養 15 薬理学 30 手術療法 30 生体の調節機能障害と治療2 15 生体の調節機能障害と治療1 30 医療と法律 30 環境保健 15 臨床心理 15	医療と法律 30 環境保健 15 社会福祉 30				医療マネジメント 15 いのちと医療の倫理 30	
	基礎分野	看護英会話 30 社会学 30 心理学 30 日本語表現法 15 情報科学 30 自然科学 30	哲学 15 創造と表現 15 コミュニケーションの基礎 15	論理学 15 国際交流と外国語 30 文化人類学 15	自己と他者の理解 15 教育学 15				
	単位数	20 / 525	20 / 525	21 / 450	18 / 570	14 / 480	9 / 390	102 / 2940	
	総単位数	40 / 1050		39 / 1020		23 / 870			



教育の基盤

慈恵の精神：「つねに人びとの幸を願い そのために献身する」
ナイチンゲール看護の継承：「生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整える」
大学の建学の精神：「病気を診ずして病人を診よ」

8. 学科進捗表

分野	科目名	単位	時間	1年次												2年次												3年次												
				4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3				
基礎分野	自然科学	1	30	←→																																				
	情報科学	1	30	←→																																				
	論理学	1	15	←→																																				
	日本語表現法	1	15	←→																																				
	哲学	1	15	←→																																				
	心理学	1	30	←→																																				
	教育学	1	15	←→																																				
	社会学	1	30	←→																																				
	文化人類学	1	15	←→																																				
	看護英会話	1	30	←→																																				
	国際交流と外国語	1	30	←→																																				
	コミュニケーションの基礎	1	15	←→																																				
	自己と他者の理解	1	15	←→																																				
	創造と表現	1	15	←→																																				
小計	14	300																																						
専門基礎分野	人体の構造	1	30	←→																																				
	生命の維持機能	1	30	←→																																				
	生体の調節機能	1	30	←→																																				
	人のからだと生活行動	1	15	←→																																				
	生化学	1	30	←→																																				
	病理学	1	15	←→																																				
	治療論	1	30	←→																																				
	生命の維持機能障害と治療	1	30	←→																																				
	生体の調節機能障害と治療1	1	30	←→																																				
	生体の調節機能障害と治療2	1	15	←→																																				
	手術療法	1	30	←→																																				
	微生物と免疫	1	30	←→																																				
	薬理学	1	30	←→																																				
	臨床栄養	1	15	←→																																				
統合医療	1	15	←→																																					
臨床心理	1	15	←→																																					
医療概論	1	15	←→																																					
いのちと医療の倫理	1	30																									←→													
医療マネジメント	1	15																									←→													
環境保健	1	15													←→																									
社会福祉	1	30													←→																									
医療と法律	1	30													←→																									
小計	22	525																																						
基礎看護学	看護学概論	1	30	←→																																				
	看護の理論と変遷	1	15																									←→												
	看護技術の基本	1	30	←→																																				
	日常生活の援助	1	30	←→																																				
	診療の補助技術	1	30	←→																																				
	フィジカルアセスメント	1	30	←→																																				
	看護過程の展開	1	30	←→																																				
	日常生活の援助技術 演習	1	45	←→																																				
	診療の補助技術 演習	1	45	←→																																				
	臨床看護総論	1	30	←→																																				
	看護研究の基礎	1	15																									←→												
	小計	11	330																																					
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15	←→																																			
		人びとの暮らし 演習	1	15	←→																																			
地域で生活する人と家族への看護		1	15													←→																								
地域で療養する人の看護		1	30													←→																								
暮らしを支える看護技術		1	30													←→																								
人生の終焉を迎える人の看護		1	30													←→																								
小計		6	135																																					
成人看護学	成人看護学概論	1	30	←→																																				
	閉き状態にある人の看護	1	30													←→																								
	危機的状況にある人の看護	1	30													←→																								
	疾病コントロールが必要な人の看護	1	30													←→																								
	生活の再構築が必要な人の看護	1	30													←→																								
	がん治療を受ける人の看護	1	15													←→																								
小計	6	165																																						
老年看護学	老年看護学概論	1	30	←→																																				
	高齢者の日常生活の援助	1	15													←→																								
	高齢者の機能障害の理解と看護	1	15													←→																								
	高齢者の健康障害の理解と看護	1	30													←→																								
小計	4	90																																						
小児看護学	小児看護学概論	1	30	←→																																				
	子どもの健康の保持増進支援	1	15													←→																								
	病気が子どもに及ぼす影響と看護	1	15													←→																								
	健康障害のある子どもの看護	1	30													←→																								
小計	4	90																																						
母性看護学	母性看護学概論	1	15	←→																																				
	女性のライフサイクルにおける健康問題と看護	1	15													←→																								
	妊婦・産婦の看護	1	30													←→																								
小計	4	90																																						
精神看護学	精神看護学概論	1	30	←→																																				
	精神障害と治療	1	15													←→																								
	精神障害のある人の看護	1	30													←→																								
	精神看護の技術	1	15													←→																								
小計	4	90																																						
看護の総合実践	看護管理と医療安全	1	30																									←→												
	災害看護と国際看護	1	30																									←→												
	多職種連携と臨床看護の実践	1	15																									←→												
	看護研究の実践	1	15																									←→												
小計	4	90																																						
学科学計	79	1905	1005												750												150													
臨床実習計	23	1035	45												270												720													
総計	102	2940	1050												1020												870													

II. 学年別講義概要